

PDF 出力設定

1. PDF セキュリティ	3
1-1. 概要	3
1-2. PDF セキュリティを設定する前に	3
1-3. PDF セキュリティ設定方法	3
1-3-1. Job ファイルでの設定	4
1-3-2. QDF ファイルでの設定	4
1-3-3. 実行オプションでの設定	6
1-4. セキュリティエディターリファレンス	7
1-4-1. パスワードの指定	7
1-4-2. 暗号化レベル	8
2. ビューアープレファレンス	10
2-1. 概要	10
2-2. メニューバーを非表示にする	10
2-3. ツールバーを非表示にする	11
2-4. ウィンドウコントロールを非表示にする	11
2-5. ページにウィンドウサイズを合わせる	12
2-6. ウィンドウを画面中央に表示する	12
2-7. ページの表示順序を右から左に切り替える	12
2-8. 複数のビューアープレファレンスを併用する	12
3. PDF オブジェクト圧縮	13
3-1. 概要	13
3-2. PDF オブジェクト圧縮設定方法	13
3-2-1. Job ファイルでの設定	13
3-2-2. 実行オプションでの設定	14
4. PDF/X	15
4-1. 概要	15
4-2. PDF/X-1a 設定方法	15
4-3. 制限事項	16
4-3-1. PDF/X-1a で使用できない機能・オブジェクト	16
4-3-2. PDF/X-1a と同時に使用できない機能	17
5. 印刷ダイアログプリセット	18
5-1. 概要	18
5-2. 印刷ダイアログプリセット設定方法	18
5-2-1. Job ファイルでの設定	18
5-2-2. 実行オプションでの設定	19
5-3. 印刷ダイアログプリセット設定項目	21
5-3-1. ページの拡大 / 縮小	21
5-3-2. 両面印刷モード	21
5-3-3. ページサイズに合わせて用紙を選択	21
5-3-4. 印刷範囲指定	21
5-3-5. 部数	23

6. 透かし	24
6-1. 概要	24
6-2. 透かし設定方法	24
6-2-1. 透明度	24
6-2-2. 印刷時のみ出力	25
6-3. 動的オブジェクト設定時の重ね合わせ設定	26
6-4. 透かし設定と同時に使用できない機能	26

1. PDF セキュリティ

1-1. 概要

Cast ランタイムでは、作成する PDF ファイルにセキュリティを付加することができます。PDF セキュリティの付加によって、ファイルの印刷や編集といった操作を制限することができます。マネージャーのジョブの編集から行える PDF セキュリティの設定値については、Adobe Acrobat のセキュリティ設定に準拠しています。

なお、PDF セキュリティの付加された PDF ファイルを開くと、Adobe Acrobat、Adobe Reader 上で、使用できない機能のツールやメニュー項目は淡色表示となります。この PDF セキュリティ機能を使用することで、作成した PDF 帳票ファイルを対象ユーザーだけに開くことを許可したり、閲覧・表示目的に限って運用することが可能となります。

Create!Form での PDF セキュリティの暗号化レベルは、40-bit RC4、128-bit RC4、128-bit AES の 3 種類をサポートしています。

1-2. PDF セキュリティを設定する前に

まず、「暗号化機能モジュール」をインストールする必要があります。

暗号化機能モジュールのインストール方法については、マネージャーのメニュー [ヘルプ] - [オンラインマニュアル] から「1. インストール」-「1.3 導入環境の設定」-「PDF セキュリティ機能・PrintStageWeb のセキュリティ印刷機能を使用する場合」をご覧ください。

<< 注意 >>

暗号化機能モジュールは、開発環境 (Design がインストールされた環境) と運用環境 (Cast がインストールされた環境) の両方にインストールしてください。

1-3. PDF セキュリティ設定方法

PDF ファイルへ PDF セキュリティを付加する方法としては、以下の 3 つの方法があります。

- ・ Job ファイルでの設定
- ・ QDF ファイルでの設定
- ・ 実行オプションでの設定

<< 注意 >>

「Job ファイル」「QDF ファイル」「実行オプション」による PDF セキュリティの設定を複数同時に使用した場合は、設定方法の優先順位によってどの PDF セキュリティ情報が使用されるかが決まります。

設定方法の優先順位

(高) 実行オプション > QDF ファイル > Job ファイル (低)

以下にそれぞれの設定方法について説明します。

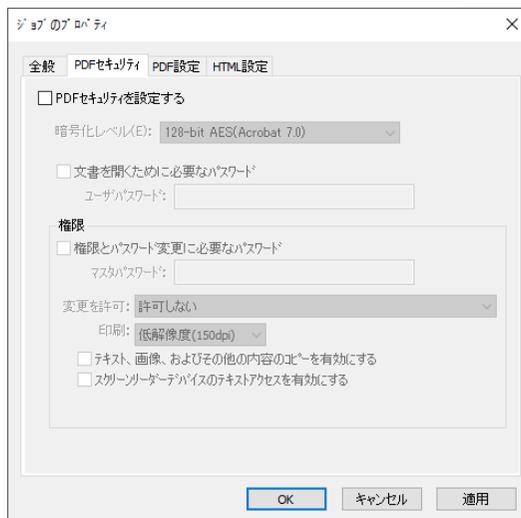
1-3-1. Job ファイルでの設定

マネージャーのジョブプロパティダイアログから PDF セキュリティ情報を設定する方法です。PDF セキュリティ情報が設定された Job ファイルを使用してランタイムを実行することで、PDF セキュリティの付加された PDF ファイルを作成することができます。この方法は、帳票単位で PDF セキュリティを付加する場合に使用します。

Job ファイルでの設定は以下の手順で行います。

1. マネージャーを起動します。
2. プレビューモードから PDF セキュリティ情報を設定する Job ファイルを選択し、右クリックメニューから、PDF セキュリティを選択します。

図：ジョブのプロパティ PDF セキュリティタブ



3. ジョブのプロパティダイアログの PDF セキュリティタブから PDF セキュリティ情報の設定を行います。
4. ジョブプロパティダイアログの [OK] ボタンをクリックして、Job ファイルを更新します。
5. PDF セキュリティ情報の設定された Job ファイルでランタイムを実行します。

PDF セキュリティの付加された PDF ファイルは、この [マスターパスワード] によって、PDF セキュリティの解除や権限の変更を行うことができます。また、[ユーザーパスワード] の設定では、PDF ファイル閲覧の際に [ユーザーパスワード] の入力を要求することができます。なお、このとき [ユーザーパスワード] ではなく、[マスターパスワード] を入力しても PDF ファイルを閲覧することが可能です。

1-3-2. QDF ファイルでの設定

QDF エディターからセキュリティエディターを起動して、PDF セキュリティ情報が記述されたセキュリティ設定ファイル (SEC ファイル) を QDF ファイルに指定する方法です。この QDF ファイルを使用してランタイムを実行することで、PDF セキュリティの付加された PDF ファイルの作成が行えます。

この方法は、ランタイム実行環境単位で PDF セキュリティを付加する場合に使用します。QDF ファイルでの設定は以下の手順で行います。

1. マネージャーを起動します。
2. ツールボタン [QDF エディター] をクリックして QDF エディターを起動します。
3. PDF セキュリティ情報を設定する既存の QDF ファイルを開くか、QDF ファイルの新規作成を行います。
4. [SEC] 項目の [参照] ボタンをクリックして、セキュリティファイル選択画面を表示します。

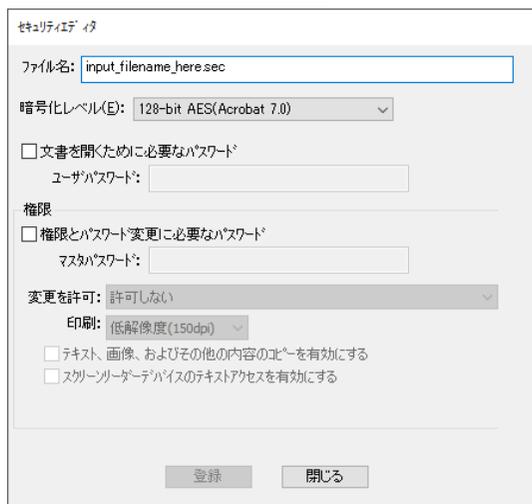
図：セキュリティファイル選択画面



5. [新規 / 変更] ボタンをクリックしてセキュリティエディター画面を表示します。
6. セキュリティエディター画面から SEC ファイル名の設定と PDF セキュリティ情報の設定を行い、SEC ファイルの作成を行います。

※セキュリティエディター画面の [登録] ボタンをクリックすると、指定された SEC ファイル名でユーザー設定（共通）フォルダー直下の [sec] フォルダーに SEC ファイルが作成されます。

図：セキュリティエディター画面



7. セキュリティファイル選択画面に戻って、作成した SEC ファイルを選択し、QDF ファイルを保存します。
8. ジョブファイルに SEC ファイルの設定された QDF ファイルを指定してランタイムを実行し

ます。

※ [default.qdf] へ SEC ファイルを設定した場合は、ランタイム実行時に QDF ファイルの指定をする必要はありません。

<< 注意 >>

Linux 環境で使用する場合には、Windows 環境で作成した QDF ファイルと SEC ファイルを転送する必要があります。QDF ファイルは Cast の導入ディレクトリ直下に、SEC ファイルは Cast の導入ディレクトリ直下の [sec] ディレクトリに、ASCII テキストモードで転送してください。

1-3-3. 実行オプションでの設定

ランタイムの実行オプションに PDF セキュリティのコマンドオプションを直接指定する方法です。このコマンドオプションを使用してランタイムを実行することで、PDF セキュリティの付加された PDF ファイルの作成が行えます。

この方法は、ランタイム実行ジョブ単位で PDF セキュリティを付加する場合に使用します。

PDF セキュリティを付加するための実行オプションは以下の通りです。

■パスワード

-Xm : マスターパスワード

-Xu : ユーザーパスワード

※このオプションの直後に各パスワードを設定します。

(例) -XmMasterPass -XuUserPass

この場合、マスターパスワードは“MasterPass”、ユーザーパスワードは“UserPass”となります。

また、最大パスワード長は半角英数字 32 文字までとなります。

■暗号化レベル

-X40 : RC4 40-bit セキュリティ

-X128 : RC4 128-bit セキュリティ

-XAES128 : AES 128-bit セキュリティ

■RC4 40-bit セキュリティオプション

-Xp : 印刷を許可しない

-Xd : 文書の変更を許可しない

-Xs : 内容のコピーや抽出を許可しない、アクセシビリティを無効にする

-Xa : 注釈とフォームフィールドの追加や変更を許可しない

■RC4 128-bit セキュリティオプション

-Xe : アクセシビリティを無効にする

-Xc : 内容のコピーと抽出を許可しない

-Xpa : 印刷 : 許可しない

-Xpl : 印刷 : 低解像度

-Xld : 許可 : 注釈作成、フォームフィールドの入力または署名

-Xlf : 許可 : フォームフィールドの入力または署名

-Xla : 許可 : 文書アセンブリのみ

-Xln : 許可 : なし

※「-Xe: アクセシビリティを無効にする」オプションを指定する場合、「-Xc: 内容のコピーと抽出を許可しない」オプションを同時に設定する必要があります。

-Xe オプション単体で PDF を出力した場合、PDF の「スクリーンリーダーデバイスのアクセスを有効にする」設定が無効にならないためご注意ください。

■ AES 128-bit セキュリティオプション

-Xbn : 許可 : 許可しない

-Xbi : 許可 : ページの挿入・削除・回転

-Xbf : 許可 : フォームフィールドの入力と既存の署名フィールドに署名

-Xbg : 許可 : 注釈の作成、フォームフィールドの入力と既存の署名フィールドに署名

-Xbo : 許可 : ページの抽出を除く全ての操作

-Xpa : 印刷 : 許可しない

-Xpl : 印刷 : 低解像度 (150dpi)

-Xpr : 印刷 : 高解像度

-Xbt : テキスト、画像、およびその他の内容のコピーを有効にする

-Xbs : スクリーンリーダーデバイスのテキストアクセスを有効にする

以上のオプションの組み合わせにより、PDF セキュリティ設定を行います。

<< 注意 >>

・暗号化レベルを指定しない場合は、40-bit のセキュリティの設定になります。

・暗号化レベル (-X40、-X128、-XAES128) のオプションを同時に設定すると、最初に設定した暗号化レベルが有効になります。

・暗号化レベルにそぐわないセキュリティオプションは無視されます。

(例) -X40 -Xp -Xs -Xe -Xln : -Xe と -Xln は 128bit オプションのため無視されます。

・RC4/AES128-bit セキュリティオプションの「印刷」、「許可」のオプションはそれぞれ一つまでしか設定できません。複数同時に設定した場合は、最初に設定したオプションが有効になります。

1-4. セキュリティエディターリファレンス

セキュリティエディターはマネージャーのジョブの編集や QDF エディターから呼び出され、PDF セキュリティ情報の設定と変更が行えます。

1-4-1. パスワードの指定

[ユーザーパスワード]

文書を開くために必要なパスワードです。

[マスターパスワード]

PDF セキュリティ設定を変更するためのパスワードです。このパスワードは、PDF セキュリティを付加するときには、必ず設定する必要があります。このパスワードで PDF ファイルを開くと [権限] で設定されている制限は一時的に解除されます。

※ユーザーパスワードと同じパスワードを設定することはできません。

PDF セキュリティの付加された PDF ファイルを開くと、Adobe Acrobat、Adobe Reader 上で使用できない機能やメニュー項目は淡色表示されます。

1-4-2. 暗号化レベル

■ 40-bit RC4

[印刷を許可しない]

ファイルの印刷ができなくなります。

[文書の変更を許可しない]

フォームフィールドの作成やその他の変更ができなくなります。

[内容のコピーや抽出を許可しない、アクセシビリティを無効にする]

テキストとグラフィックのコピーができなくなり、アクセシビリティインターフェースが無効になります。

[注釈とフォームフィールドの追加や変更を許可しない]

注釈とフォームフィールドの追加や変更ができなくなります。ただし、フィールドに入力することはできます。

■ 128-bit RC4

[アクセシビリティを有効]

アクセシビリティ機能のサポートが必要な文書内容の使用が許可されます。

[内容のコピーと抽出を許可]

PDF 文書の内容がコピーできるようになります。このオプションは、PDF の内容に直接アクセスする必要のあるプラグインの動作に関連しています。

[変更を許可]

[なし]

PDF ファイルに対してどのような変更もできなくなります。署名、フォームフィールドへの入力もできなくなります。

[文書アセンブリのみ]

ユーザーはページの挿入、削除、回転、しおり、サムネイルの作成を行うことができます。

[フォームフィールドの入力または署名のみ]

署名とフォームフィールドへの入力はできますが、これらを作成することはできません。

[注釈作成、フォームフィールドの入力または署名]

上記のオプションで許可された内容に加え、注釈の追加が行えます。

[編集、注釈及びフォームフィールドの作成]

内容の抽出と印刷以外のすべてのことを文書に対して行えます。

[印刷]

[許可しない]

文書を印刷することができなくなります。

[低解像度]

印刷はできますが、低い解像度でしか印刷できません。

[すべて許可]

すべての解像度で印刷でき、PostScript や高品質の印刷機能をサポートするプリンターへ高品質のベクトル出力を行うことができます。

■ 128-bit AES

[変更を許可]

[なし]

PDF ファイルに対してどのような変更もできなくなります。

[ページの挿入、削除、回転]

文書にページ単位の変更を行うことができます。

[フォームフィールドの入力と既存の署名フィールドに署名]

フォームの入力と署名のみを許可します。

[注釈の作成、フォームフィールドの入力と既存の署名フィールドに署名]

フォームにユーザーの意見や感想などを付加することができます。

[ページの抽出を除くすべての操作]

文書のページ構成を変更することはできません。

[印刷]

[許可しない]

文書を印刷することができなくなります。

[低解像度]

高画質で印刷されると不都合がある場合に使用します。

[高解像度]

ユーザーによる鮮明なコピーの印刷を行うことができます。

[テキスト、画像、およびその他の内容のコピーを有効にする]

文書に変更を加えることはできませんが、コンテンツをコピーする操作のみ行うことができます。

[スクリーンリーダーデバイスのテキストアクセスを有効にする]

障害のあるユーザー向けにスクリーンリーダーを利用したコンテンツの読み上げを行うことができます。

2. ビューアープレファレンス

2-1. 概要

ビューアープレファレンスとは、PDF ファイルが Adobe Acrobat や Adobe Reader などの PDF ビューアードで開かれた際に、PDF ビューアの表示方法を制御する機能です。PDF ファイルはこのビューアープレファレンス情報を個々の PDF ファイル内で持つことができ、PDF ファイルごとに PDF ビューアの表示方法の制御ができます。

Create!Form では実行コマンドラインにオプションをつけてランタイム実行することで、オプションに対応したビューアープレファレンス情報を PDF ファイルに埋め込むことができます。Create!Form がサポートするビューアープレファレンス機能と実行オプションの一覧は以下の通りです。

ビューアの制御内容	オプション
メニューバーを非表示にする	-vum
ツールバーを非表示にする	-vut
ウィンドウコントロールを非表示にする	-vuw
ページにウィンドウサイズを合わせる	-vwf
ウィンドウを画面中央に表示する	-vwc
ページ表示順序を右から左に切り替える	-vpd

※「-vum」と「-vuw」を同時に指定した場合、PDF ファイルには両方の制御情報が書き込まれますが、Adobe Acrobat XI以降、又は Adobe Reader XI以降のビューアードで開くと、ビューアの機能により必ずメニューバーが表示されます。

以下は、それぞれのビューアープレファレンス機能について説明します。

2-2. メニューバーを非表示にする

実行コマンドラインに“-vum”オプションをつけてランタイム実行することで、PDF ファイルが開かれた際に「メニューバーを非表示にする」というビューアープレファレンス情報を組み込んだ PDF ファイルの出力ができます。

例：実行コマンドライン

```
CCast.exe -DC:%ProgramData%\Infotec\CreateForm\12\work\sample\09_運用レポート-sI03_hoken.sty -oI03_hoken.pdf -vum C:%ProgramData%\Infotec\CreateForm\12\work\sample\09_運用レポート\I03_hoken.csv
```

図：メニューバーを非表示にする



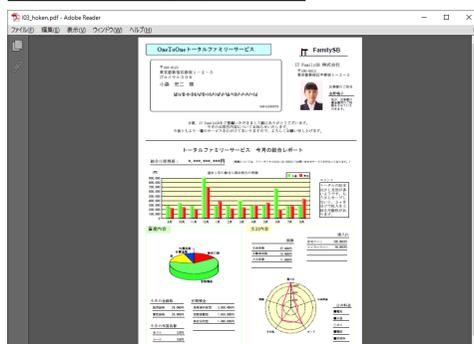
2-3. ツールバーを非表示にする

実行コマンドラインに“-vut”オプションをつけてランタイム実行することで、PDF ファイルが開かれた際に「ツールバーを非表示にする」というビューアプレファレンス情報を組み込んだ PDF ファイルの出力ができます。

例：実行コマンドライン

```
CCast.exe -DC:%ProgramData%\Infotec\CreateForm¥12¥work¥sample¥09_運用レポート
-sI03_hoken.sty -oI03_hoken.pdf -vut C:%ProgramData%\Infotec\CreateForm¥12¥work¥
sample¥09_運用レポート¥I03_hoken.csv
```

図：ツールバーを非表示にする



2-4. ウィンドウコントロールを非表示にする

実行コマンドラインに“-vuw”オプションをつけてランタイム実行することで、PDF ファイルが開かれた際に「スクロールバーやナビゲーションコントロールを非表示にする」というビューアプレファレンス情報を組み込んだ PDF ファイルの出力ができます。

例：実行コマンドライン

```
CCast.exe -DC:%ProgramData%\Infotec\CreateForm¥12¥work¥sample¥09_運用レポート
-sI03_hoken.sty -oI03_hoken.pdf -vuw C:%ProgramData%\Infotec\CreateForm¥12¥work¥
sample¥09_運用レポート¥I03_hoken.csv
```

図：ウィンドウコントロールを非表示にする



2-5. ページにウィンドウサイズを合わせる

実行コマンドラインに“-vwf” オプションをつけてランタイム実行することで、PDF ファイルが開かれた際に「最初に表示されたページサイズに合わせて PDF ビューアーのウィンドウサイズを変更する」というビューアープレファレンス情報を組み込んだ PDF ファイルの出力ができます。

2-6. ウィンドウを画面中央に表示する

実行コマンドラインに“-vwc” オプションをつけてランタイム実行することで、PDF ファイルが開かれた際に「PDF ビューアーを画面の中央に配置する」というビューアープレファレンス情報を組み込んだ PDF ファイルの出力ができます。

2-7. ページの表示順序を右から左に切り替える

実行コマンドラインに“-vpd” オプションをつけてランタイム実行することで、PDF ファイルが開かれた際に「ページの表示順序を通常の左から右という向きから、右から左という向きに変更する」というビューアープレファレンス情報を組み込んだ PDF ファイルの出力ができます。この指定は、日本語の縦書きの文書を PDF ビューアー上で横に並べて表示させたり、1 枚の紙に n ページ分を印刷する時にページの位置関係を指定するために使用することができます。

2-8. 複数のビューアープレファレンスを併用する

複数のビューアープレファレンス情報を PDF ファイルに埋め込みたい場合には、対応するオプションを実行コマンドライン内で複数指定します。

例：実行コマンドライン

```
CCast.exe -DC:%ProgramData%¥Infotec¥CreateForm¥12¥work¥sample¥09_運用レポート
-sI03_hoken.sty -oI03_hoken.pdf -vum -vut -vwf C:%ProgramData%¥Infotec¥
CreateForm¥12¥work¥sample¥09_運用レポート ¥I03_hoken.csv
```

図：メニューバー、ツールバー、ページにウィンドウサイズを合わせる



3. PDF オブジェクト圧縮

3-1. 概要

PDF オブジェクト圧縮とは、PDF 内のオブジェクトを圧縮して出力することで、ファイルサイズを縮小するための機能です。

Create!Form では以下のいずれかの場合に、PDF オブジェクト圧縮を設定することでファイルサイズの縮小効果があります。

- ・出力ページ数が多い場合
- ・使用するフォント数が多い場合

上記のいずれにも該当しない場合は、PDF オブジェクト圧縮を設定することでファイルサイズが増加する場合がありますので、ご注意ください。

3-2. PDF オブジェクト圧縮設定方法

PDF オブジェクト圧縮を設定する方法は、以下の2つの方法があります。

- ・Job ファイルでの設定
- ・実行オプションでの設定

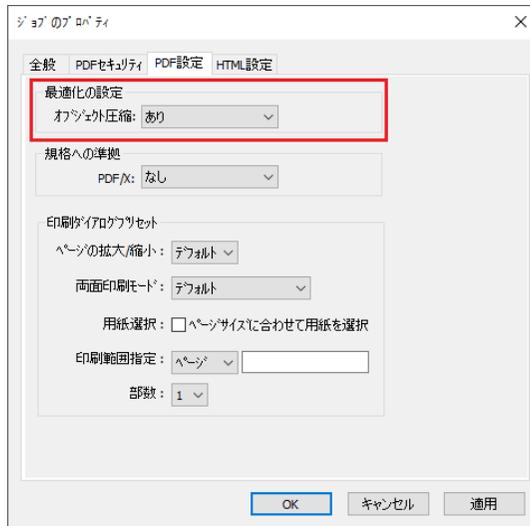
3-2-1. Job ファイルでの設定

マネージャーのジョブプロパティダイアログから PDF オブジェクト圧縮を設定する方法です。PDF オブジェクト圧縮が設定された Job ファイルを使用してランタイムを実行することで、オブジェクトが圧縮された PDF ファイルを作成することができます。

Job ファイルでの設定を行う場合は以下の手順で行います。

1. マネージャーを起動します。
2. プレビューモードから PDF オブジェクト圧縮を設定する Job ファイルを選択し、右クリックメニューから PDF 設定を選択します。

図：ジョブのプロパティ PDF 設定タブ



3. ジョブのプロパティダイアログの PDF 設定タブが表示されます。
4. [最適化の設定] - [オブジェクト圧縮] から、PDF オブジェクト圧縮の設定を行います。
※ “あり” に設定した場合は PDF オブジェクト圧縮が設定され、“なし” に設定した場合は PDF オブジェクト圧縮設定が解除されます。
5. ジョブプロパティダイアログの [OK] ボタンをクリックして、Job ファイルを更新します。

3-2-2. 実行オプションでの設定

実行コマンドラインに “-Fo” オプションをつけてランタイム実行することで、オブジェクトが圧縮された PDF が出力されます。

4. PDF/X

4-1. 概要

PDF/X とは、印刷を目的とした ISO 基準の PDF 規格です。印刷上問題となるカラーやフォントなどの不確定要素を無くし、環境に依存せずに印刷結果が一致するように規定されています。

Cast ランタイムでは、PDF/X-1a という規格で出力が可能です。

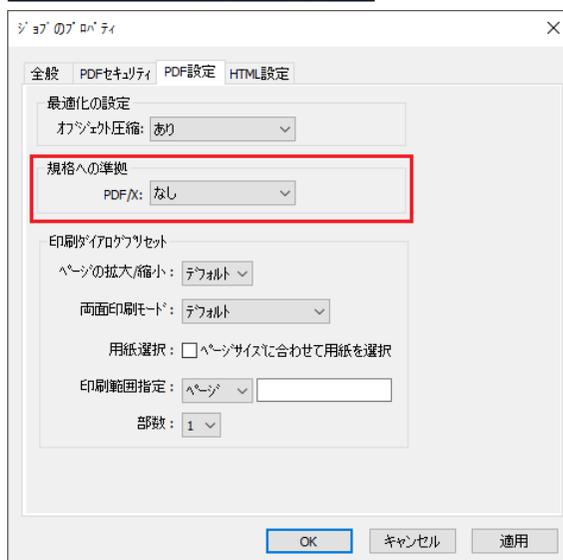
4-2. PDF/X-1a 設定方法

マネージャーのジョブプロパティダイアログから Job ファイルに設定します。PDF/X-1a が設定された Job ファイルを使用して Cast ランタイムを実行することで、PDF/X-1a 規格の PDF ファイルを作成することができます。

Job ファイルへの設定は以下の手順で行います。

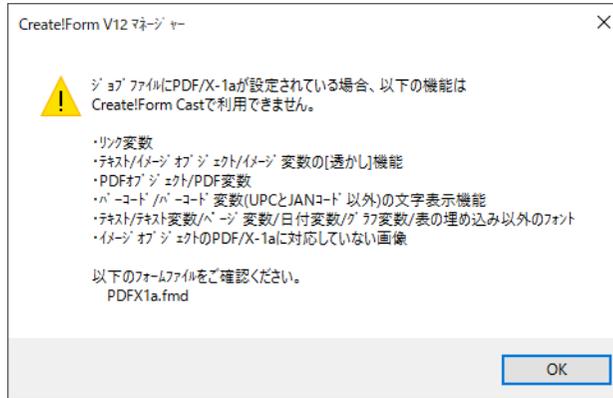
1. マネージャーを起動します。
2. プレビューモードから PDF/X-1a を設定する Job ファイルを選択し、右クリックメニューから、PDF 設定を選択します。

図：ジョブのプロパティ PDF 設定タブ



3. ジョブのプロパティダイアログの PDF 設定タブが表示されます。
4. [規格への準拠] - [PDF/X] から、PDF/X-1a の設定を行います。
※ “PDF/X-1a” を選択した場合は PDF/X-1a が設定され、“なし” を選択した場合は PDF/X-1a の設定はされません。
5. ジョブプロパティダイアログの [OK] ボタンをクリックして、Job ファイルを更新します。
※設定している Job ファイルに登録されている Form ファイルに、PDF/X-1a では使用できない機能・オブジェクトが定義されている場合、以下の警告ダイアログが表示されます。使用できない機能・オブジェクトについては、「4-3-1. PDF/X-1a で使用できない機能・オブジェクト」をご覧ください。

図：PDF/X-1a 設定時の警告ダイアログ



4-3. 制限事項

4-3-1. PDF/X-1a で使用できない機能・オブジェクト

PDF/X-1a で出力する場合、Cast ランタイムでは以下の機能・オブジェクトを使用することができません。

- ・リンク変数オブジェクト
- ・テキストオブジェクト / イメージオブジェクト / イメージ変数オブジェクトの透かし機能
- ・PDF オブジェクト / PDF 変数オブジェクト
- ・バーコードオブジェクト / バーコード変数オブジェクト (UPC と JAN コード以外) の文字表示機能
- ・埋め込みフォントでないフォント
 - ※以下のオブジェクトが該当します。
 - テキストオブジェクト / テキスト変数オブジェクト / ページ変数オブジェクト / 日付変数オブジェクト / グラフ変数オブジェクト / グラフ変数オブジェクト / 表オブジェクト
- ・イメージオブジェクト / イメージ変数オブジェクトの PDF/X-1a に対応していない画像

※透かし機能については、本マニュアルの「6. 透かし」をご覧ください。

※埋め込みフォントについては、マネージャーのメニュー [ヘルプ]-[オンラインマニュアル] から「3. 機能リファレンス」-「3.6 フォントの指定・多言語出力」-「PDF 用埋め込みフォント」をご覧ください。

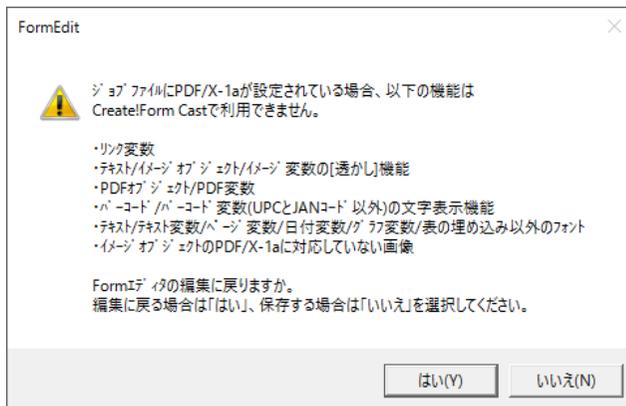
※ PDF/X-1a に対応している画像フォーマットは、以下の通りです。

- ・TIFF ファイル
 - 色数：32 ビット CMYK フルカラー
 - 圧縮：非圧縮、LZW
- ・JPEG ファイル
 - 色数：32 ビット CMYK フルカラー
 - 符号化方式：ベースライン、プログレッシブ

<< 注意 >>

PDF/X-1a を設定した Job ファイルに登録された Form ファイルを Form エディターで保存した場合、PDF/X-1a で使用できない機能・オブジェクトが定義されていると、以下の警告ダイアログが表示されます。“はい”を選択し、Form ファイルの設定を確認してください。“いいえ”を選択すると、Form ファイルは保存されますが、Cast ランタイム実行時にエラーとなります。

図：Form エディターの PDF/X-1a に関する警告



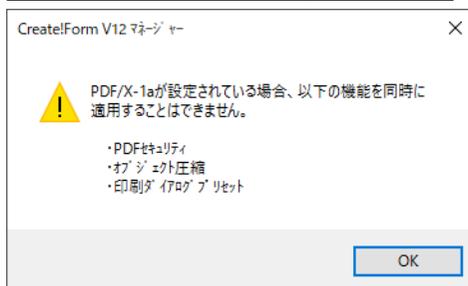
4-3-2. PDF/X-1a と同時に使用できない機能

PDF/X-1a を設定した場合、以下の PDF 設定は使用できません。

- ・PDF セキュリティ
- ・オブジェクト圧縮
- ・印刷ダイアログプリセット

ジョブプロパティから PDF/X-1a と上記の PDF 設定を同時に設定した場合、以下の警告ダイアログが表示され、保存することができません。

図：ジョブプロパティ保存時の警告ダイアログ



5. 印刷ダイアログプリセット

5-1. 概要

PDF ファイルには、基本的な印刷オプションが指定された印刷プリセットを含めることができます。

印刷プリセットを設定することで、PDF ビューアーの印刷ダイアログボックスで一定のオプションを毎回手動で設定する必要がなくなります。印刷プリセットでは、以下の印刷オプションを指定することが可能です。

- ・ ページの拡大 / 縮小
- ・ 両面印刷モード
- ・ ページサイズに合わせ用紙を選択
- ・ ページ指定
- ・ 部数

5-2. 印刷ダイアログプリセット設定方法

印刷ダイアログプリセットを設定する方法は、以下の 2 つの方法があります。

- ・ Job ファイルでの設定
- ・ 実行オプションでの設定

<< 注意 >>

「Job ファイル」「実行オプション」による印刷ダイアログプリセットの設定を同時に使用した場合は、設定方法の優先順位によってどの印刷ダイアログプリセット設定が使用されるかが決まります。

設定方法の優先順位

(高) 実行オプション > Job ファイル (低)

5-2-1. Job ファイルでの設定

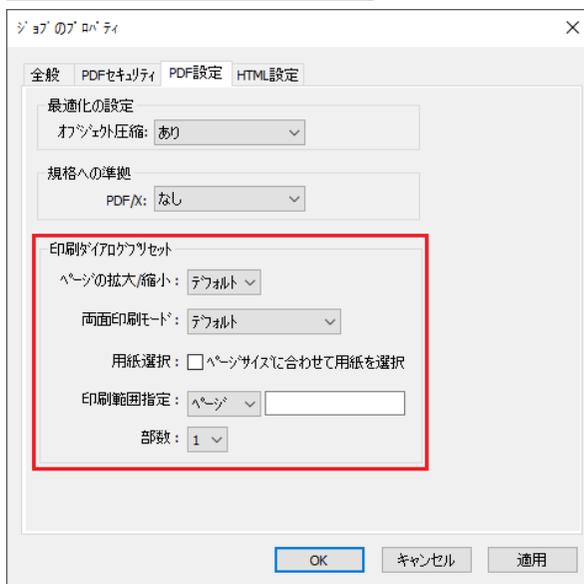
マネージャーのジョブプロパティダイアログから印刷ダイアログプリセットを設定する方法です。

印刷ダイアログプリセットが設定された Job ファイルを使用してランタイムを実行することで、印刷プリセットが含まれた PDF ファイルを出力することができます。

Job ファイルでの設定は以下の手順で行います。

1. マネージャーを起動します。
2. プレビューモードから印刷ダイアログプリセットの設定する Job ファイルを選択し、右クリックメニューから、PDF 設定を選択します。

図：ジョブのプロパティ PDF 設定タブ



3. ジョブのプロパティダイアログの PDF 設定タブが表示されます。
4. [印刷ダイアログプリセット] から、印刷ダイアログプリセットの設定を行います。設定項目の詳細は、本マニュアルの「5-3. 設定項目」をご覧ください。
5. ジョブプロパティダイアログの [OK] ボタンをクリックして、Job ファイルを更新します。

5-2-2. 実行オプションでの設定

実行コマンドラインにオプションをつけて Cast ランタイム実行することで、印刷プリセットが含まれた PDF ファイルを出力することができます。

印刷ダイアログプリセットの実行オプションは、以下の通りです。

■ ページの拡大 / 縮小の指定

- Ys0 : デフォルト
- Ys1 : なし

■ 両面印刷モードの指定

- Yd0 : 片面
- Yd1 : 両面 (左右に開く)
- Yd2 : 両面 (上下に開く)

■ ページサイズに合わせて用紙を選択の指定

- Yto : ページサイズに合わせて用紙を選択
- Ytn : デフォルト

■印刷範囲のページ指定

- Yrs : 印刷開始ページの指定
- Yre : 印刷終了ページの指定
- Yrse : 指定したページのみ印刷指定
- Yr : 印刷ページの範囲指定

(例) 3 ページ目から終了ページまでを印刷 … -Yrs3
2 ページ目から 4 ページまでを印刷 … -Yr2-4

<< 注意 >>

複数のページ指定オプションが指定されていた場合、優先順位は以下の通りとなります。

ページ指定オプションの優先順位

(高) Yr > Yrs, Yre, Yrse (低)

Yrs, Yre, Yrse のみの場合、実行オプション順に設定内容が上書きされます。

■印刷範囲のユニット指定

- Yus : 印刷開始ユニットの指定
- Yue : 印刷終了ユニットの指定
- Yuse : 指定したユニットのみ印刷指定
- Yu : 印刷ユニットの範囲指定

(例) ジョブユニット 1 からジョブユニット 3 までを印刷 … -Yue3
ジョブユニット 2 とジョブユニット 3 を印刷 … -Yu2, 3
ジョブユニット 2 からジョブユニット 4 まで、ジョブユニット 6 を印刷 … -Yu2-4, 6

<< 注意 >>

複数のジョブユニット指定オプションが指定されていた場合、優先順位は以下の通りとなります。

ジョブユニット指定オプションの優先順位

(高) Yu > Yus, Yue, Yuse (低)

Yus, Yue, Yuse のみの場合、実行オプション順に設定内容が上書きされます。

また、ページ指定とジョブユニット設定が同時に指定されていた場合、優先順位は以下の通りとなります。

オプションの優先順位

(高) ページ指定 > ユニット指定 (低)

■部数指定

- Yc : 部数指定

(例) 3 部印刷 … -Yc3

5-3. 印刷ダイアログプリセット設定項目

5-3-1. ページの拡大 / 縮小

印刷可能領域に合わせて自動的に拡大縮小を行うかどうかを選択します。

- ・ デフォルト アプリケーション (PDF ビューアー) のデフォルト値 (前回、印刷した時のページの拡大 / 縮小の設定) で印刷します。
- ・ なし 自動的に拡大縮小を行いません。

5-3-2. 両面印刷モード

デフォルト、両面 (左右に開く)、両面 (上下に開く) から選択します。

- ・ デフォルト アプリケーション (PDF ビューアー) のデフォルト値 (前回、印刷した時の両面印刷モードの設定) で印刷します。
- ・ 両面 (左右に開く) 用紙の両面に印刷し、縦目に沿って用紙を裏返します。
- ・ 両面 (上下に開く) 用紙の両面に印刷し、横目に沿って用紙を裏返します。

※両面オプションを選択する場合、プリンターは両面印刷に対応している必要があります。

5-3-3. ページサイズに合わせて用紙を選択

異なる用紙サイズが混在する PDF ファイルを、各ページの用紙サイズに合わせて印刷したい場合に選択します。

- ・ チェックを入れる ページサイズに合わせて用紙を選択します。
- ・ チェックを外す アプリケーション (PDF ビューアー) のデフォルト値 (前回、印刷した時のページサイズに合わせて用紙を選択の設定) で印刷します。

5-3-4. 印刷範囲指定

PDF ファイルの印刷する範囲を、ページ指定もしくはジョブユニット指定します。それぞれの設定は、以下の通りです。

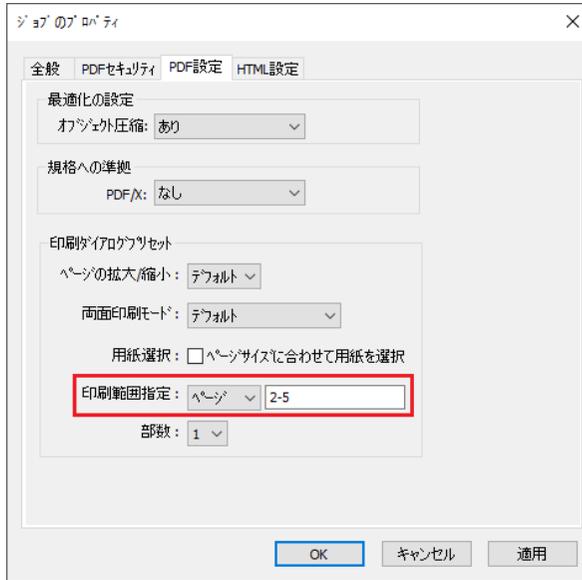
■ ページ指定

Cast ランタイムで出力する PDF ファイルの印刷ページ範囲を直接指定する設定です。

ジョブプロパティダイアログでは、印刷範囲指定のコンボボックスで “ページ” を選択し、印刷するページ範囲を入力します。

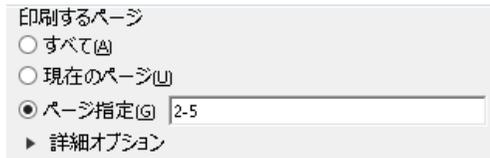
次の図では、2 ページ目から 5 ページ目を印刷範囲としています。

図：印刷ダイアログプリセット ページ指定例



上記の設定をしたジョブを Cast ランタイムでプレビュー実行して、PDF ファイルを [Adobe Acrobat] または [Adobe Reader] で開きます。PDF ビューアーから印刷しようとする、以下のように印刷範囲が指定されています。

図：PDF ビューアーの印刷ダイアログ



■ ジョブユニット指定

Cast ランタイムで出力する PDF ファイルの印刷ページ範囲をジョブユニットで指定する設定です。

ここでは、ジョブユニット指定した帳票資源ファイルが “帳票資源フォルダー ¥reference¥PrintDialogPreset” に用意されていますので、このファイルを使用して説明します。この帳票は、納品書・請求書・受領書のセット帳票となっています。帳票資源フォルダーは、マネージャーの [ヘルプ]-[バージョン情報]-[バージョン情報詳細] で確認できます。

◆◆操作◆◆

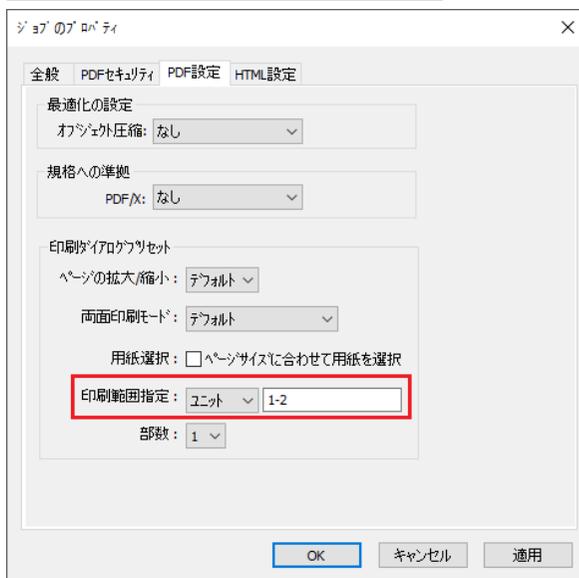
マネージャーを起動します。画面左のフォルダーツリーから

“帳票資源フォルダー ¥reference¥PrintDialogPreset”

を選択します。帳票一覧より、「印刷範囲ジョブユニット指定」を選択し、右クリックで [PDF 設定] を選択します。

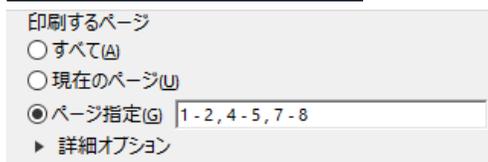
印刷ダイアログプリセットの印刷範囲設定が、コンボボックスで “ユニット” が選択され、印刷範囲が “1-2” であることを確認します。これは、ジョブユニット1(納品書)とジョブユニット2(請求書)を印刷範囲に設定しているということになります。

図：印刷ダイアログプリセット ユニット指定



この帳票資源ファイルを Cast ランタイムでプレビュー実行して、PDF ファイルを [Adobe Acrobat] または [Adobe Reader] で開きます。PDF ビューアーから印刷しようとする、以下のように印刷範囲が指定されています。

図：PDF ビューアーの印刷ダイアログ



ジョブユニット 1 (納品書) は 1・4・7 ページ目に出力され、ジョブユニット 2 (請求書) は 2・5・8 ページ目に出力されているために、上記の印刷範囲となります。

<< 注意 >>

ページ指定、またはジョブユニット指定する場合は、半角数字を使用し、範囲をハイフン (-) で指定し、複数の範囲を指定する場合はカンマ (,) で区切ってください。

5-3-5. 部数

印刷する部数を指定します。1～5の数字を選択することが可能です。

6. 透かし

6-1. 概要

透かしとは、文書の前面または背面に表示したテキストまたは画像です。一般的には、文書内容の証明や文書の不正利用を防止するために使用されます。

Create!Formでは、Formエディターでレイアウト作成時に、オブジェクトに対して透かし設定を行います。透かしの設定を行うことができるオブジェクトは、以下の3つとなります。

- ・テキストオブジェクト
- ・イメージオブジェクト
- ・イメージ変数オブジェクト

6-2. 透かし設定方法

透かし設定は、それぞれのオブジェクトのプロパティダイアログの[透かし]タブから設定することができます。

図：プロパティダイアログ 透かしタブ（テキストオブジェクト）



Create!Formの透かし設定には、“透明度”と“印刷時のみ出力”設定があります。

6-2-1. 透明度

透明度では、テキストもしくは画像をどれくらい透過させるかを設定することができます。

プロパティダイアログの[透かし]タブの“透明度”にチェックを入れ、“%”を設定します。0%は透明にならない状態、100%は完全に透明な状態となります。

また、透過度にチェックを入れると、重ね合わせ設定が有効となります。“最前面に描画”か“最背面に描画”を選択します。

図：プロパティダイアログ 透かしタブ（透過度設定）

出力設定	重ね合わせ設定
<input checked="" type="checkbox"/> 透過度 50 %	<input checked="" type="radio"/> 最前面に描画
<input type="checkbox"/> 印刷時のみ出力	<input type="radio"/> 最背面に描画

以下は、透過度を設定した時の PDF ファイルの表示結果です。

図：透過度を設定した PDF ファイルの表示

透過度0%

透過度20%

透過度40%

透過度60%

透過度80%

6-2-2. 印刷時のみ出力

印刷時のみ出力は、PDF ビューアーなどで開いた時には表示させず、PDF ファイルを印刷した時には出力させる設定です。例えば、PDF ファイルを印刷した時のみ“社外秘”と出力させたい場合などに、使用します。

プロパティダイアログの [透かし] タブの“印刷時のみ出力”にチェックを入れます。

また、透過度と同様に、印刷時のみ出力にチェックを入れると、重ね合わせ設定が有効となります。“最前面に描画”か“最背面に描画”を選択します。

図：プロパティダイアログ 透かしタブ（印刷時のみ出力設定）

出力設定	重ね合わせ設定
<input type="checkbox"/> 透過度 50 %	<input checked="" type="radio"/> 最前面に描画
<input checked="" type="checkbox"/> 印刷時のみ出力	<input type="radio"/> 最背面に描画

6-3. 動的オブジェクト設定時の重ね合わせ設定

動的オブジェクト設定したテキストオブジェクトを透かし設定する場合、透かし設定の重ね合わせは無効となり、動的オブジェクトで設定した重ね合わせ設定が有効となります。

図：動的オブジェクト設定したテキストオブジェクト

6-4. 透かし設定と同時に使用できない機能

透かし設定と表連携出力設定は、同時に設定することができません。

透かし設定をした状態で、表連携出力設定をしようとした場合、以下の警告ダイアログが出力されます。透かし設定を解除する場合は「はい」を、表連携出力設定をしない場合は「いいえ」を選択します。

図：透かしと表連携出力を設定した場合の警告

また、表連携出力設定をした場合、透かし設定は全て無効となります。

図：透かし設定の無効

以下の両方の設定をした場合、領域内で折り返す設定が常に有効となりません。

- ・埋め込みでないフォント
- ・透かし

Create!Form 12

PDF 出力設定 第2版

発行日	2024年8月
発行者	インフォテック株式会社